

閉 会 挨 拶

高 杉 泰 穂

ただいまご紹介いただきました当館専門員の高杉と申します。シンポジウムの閉会に際しまして、一言ご挨拶とお礼を申し上げます。



まず初めに、本シンポジウムの講師として報告や討議、そして回答をいただきました先生方に厚くお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

また、ご来場の皆様方には、最後まで熱心にお話をお聞きいただき、そしてまた様々な質問をしていただきまして、本当にありがとうございました。

今回のこのシンポジウムでは、「資料を残し、未来に伝える」という大きな目的のために、ライブラリー、ミュージアム、アーカイブズといった館種を超えて、情報の交換ならびに共有化を行い、協力し合って資料保存の作業を進めていくことの大切さを、改めて認識できたように思います。そして、このシンポジウムがそうした協働作業の一つのステップとなればうれしく思います。

ご案内のとおり、本シンポジウムは資料

室の移転・開室を記念して企画いたしました。ただ、記念と申しましても単なる移転の記念ではありません。資料室が経済学図書館の組織として新たな一步を踏み出した、スタートを切ったという、その記念でございます。

皆様方におかれましては、新生なった資料室に対しまして、今まで以上のご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。簡単ではございますが、閉会に当たっての挨拶とさせていただきます。

本日はお忙しい中、長時間にわたりましてご参加いただき、本当にありがとうございました。

(たかすぎ やすお:東京大学経済学図書館
専門員)

